

国際化学肥料ニュース (2013年7月)

肥料業界の2013年7月動態

- * 世界銀行が発表した「2013年下半期商品需給展望報告書」には、化学肥料の価格が第3四半期末に10%安くなるだろうと書いている。尿素とりん安は下落幅が大きく、特にDAPは10%以上の下落を予測する。

肥料価格下落の主な原因は、インドと中国の肥料需要量が減少することである。また、尿素とDAP生産能力が大幅に増加することによる供給過剰も重要な原因である。

中東湾岸地域、アメリカ、ロシアの天然ガス価格下落の影響、湾岸地域、ロシア、アメリカに大規模の尿素工場とりん安工場の新設もあり、2014年も肥料価格が引き続き5%ぐらい下落するだろうと予測する。

- * ブラジルの2013年塩化加里需要量が780~790万トンであると予測する。5月ブラジル塩化加里輸入量83.9万トン、4月より10%増(昨年同期より5%減)。今年から粒状塩化加里はCFR440~460ドル/トンの価格が続いている。
- * ロシアからの報道によれば、世界の加里肥料需要が低迷のため、ロシア最大の加里肥料メーカーUralkali社の1~6月塩化加里生産量が450万トン、昨年より6.25%減、第2四半期の塩化加里生産量が290万トンであった。
- * イラン5月尿素輸出量27.1万トン、1~5月尿素輸出量合計77.6万トン、昨年同期の134.5万トンより大幅減少した。インドへの輸出量が昨年同期とほぼ同程度であったが、他の国への輸出がほとんど無くなった。アメリカの制裁措置と国際市況の低迷が輸出不振の理由である。
- * ブラジル税関からの発表で、今年1~6月にブラジルの化成肥料輸入量が53.92万トンに達し、昨年同期より23.5%増であった。特に2月、4月と5月の輸入量がそれぞれ91%、227.5%、270%増であった。
また、6月の尿素輸入量が22.7万トン、1~6月の尿素輸入量が157.6万トンに達し、昨年同期より60%増であった。

- * アメリカ 5 月の尿素輸入量が 43.7 万トン。2012 年 7 月～2013 年 5 月の尿素輸入量が 797 万トンに達し、昨年同期より 25%増、新記録となった。トウモロコシや大豆の農産物価格が高値で保っているため、農家が肥料購入と施用に力を入れる。
- * インド IPL 社が 7 月 26 日に締め切った最新の尿素入札について、報道機関からの情報によれば、最低入札価格は CFR303.5 ドル/トンで、6 月 22 日に締め切ったインド STC 社の最低入札価格と同じである。ただし、CFR303.5～305.68 ドル/トンの低価格帯の入札量が 32 万トンだけで、インド側が希望する 150 万トンに遠く及ばない。

大手各社の営業業績

- * ベラルーシ通信社の報道によれば、国営のベラルーシ加里 (Belaruskali) 今年第 1 四半期の売上高 4.47 億ドル (昨年同期より 5.5%増)、塩化加里の輸出単価が大幅下落した影響により、逆に純利益が 78%減の 2600 万ドルしかなかった。
 また、1～5 月の輸出による外貨収入が 10.2 億ドル、昨年同期より 10.7%減少した。主な原因は加里肥料の輸出価格の下落である。1～5 月、ベラルーシ加里が 159.7 万トン加里肥料 (100%K₂O 換算、以下同) を輸出し、昨年同期より 4.1%増にもかかわらず、平均単価が昨年同期の 744.3 ドル/トンから 639.1 ドル/トンに下落した。
 2011 年加里肥料輸出量 469.8 万トン、平均単価 713 ドル/トン、外貨収入 32.49 億ドル。2012 年加里肥料輸出量 366.8 万トン、平均単価 727 ドル/トン、外貨収入 26.67 億ドルであった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ベラルーシ政府総理は国営 Belaruskali 社を視察した後、当社の第 4 鉱務局に加里化合物を生産する化学工場を建設する計画を発表した。その計画の概要は加里鉱石を原料として、年間 1 万トン水酸化カリウム、1.75 万トン塩酸、4200 トン次亜塩素酸カリウムを生産する。総投資額 3280.5 万ドル。今年 11 月に建屋を完成し、設備を据付、来年から生産開始予定。
- * 7 月 17 日、アフリカ最大の加里肥料生産基地がコンゴ共和国南西部の港 Pointe-Noire に着工した。当該工場は 2015 年末完成、生産能力 120 万トン加里肥料/年、投資額 13 億ドル超。中国資本参加のコンゴ MPC 社が主体でその開発を担当する。
- * ロシア最大の肥料メーカー EuroChem 社はアメリカルイジアナ州に 15 億ドルを投資して、アンモニア-尿素工場を建設する計画を表明した。建設予定期間が 4 年間で、2014 年に生産規模、工場位置等を正式に決定する予定。

- * インドネシア政府は西バブアー州の **Teluk Bintuni** にアンモニア／尿素工場と石油化学工場を建設する計画を公表した。2014年初着工、2016年から生産開始、総投資額40億ドル。**Teluk Bintuni** は **Tangguh** 天然ガス田に近く、その天然ガスを原料として、アンモニア、尿素、メタノール、ポリエチレン、ポリプロピレン等を生産する。
- * 7月16日、エジプト **OCI** 社は、アルジェリア国営炭化水素公社 (**Sonatrach**) との合弁企業 **Sorfert** 工場の **No.1** 系列尿素ラインが正常に稼働し始めて、**No.2** 尿素ラインも設備の据え付けが完了し、順調に試運転を行っていると発表した。8月から当該工場の尿素が輸出し始まる。当該工場の設計生産能力はアンモニア **80** 万トン／年、大粒尿素 **136** 万トン／年である。
- * 7月29日、ロシア **Eurochem** 社は中国加里肥料メーカー **Migao Corp** と合弁企業を設立し、中国に硝酸加里及び塩素を有しない化成肥料を生産販売する計画を発表した。計画によれば、2013年に工場を建設し、2014年完成予定。当該工場の生産能力は硝酸加里 **6** 万トン／年、塩素を有しない化成肥料 **20** 万トン／年である。

その他

- * アメリカオハイオ州上院は今年末に化学肥料を規制する新たな法律を制定する動きが表面化した。公表されたその法律原案は、オハイオ州に化学肥料を生産・販売するすべての法人と個人は、オハイオ州農業局から許可証をもらわなければならない。また、オハイオ州に化学肥料の施用面積が **10** エーカー (1 エーカー=4047m²) 以上の場合も同様に事前オハイオ州農業局に許可を申請しなければならない。なお、申請者は講習と試験を経て初めて許可証が得られる仕組みとなっている。オハイオ州はアメリカのトウモロコシの主な産地で、昨年トウモロコシ栽培面積 **365** 万エーカー、今年は栽培面積がさらに拡大し、**395** 万エーカーに達する。
- * 7月30日、ロシアとベラルーシが協同で組織した加里肥料販売会社 **BPC** (**Belarus Potash Corporation**) は分裂に陥った。ロシア **Uralkali** 社が **BPC** から脱退することを発表した。
 BPCはカナダの **Conpotex** に次ぐ世界第2位の加里肥料販売会社で、シェアは30%以上である。**Uralkali** 社が世界加里肥料生産量の約20%を占め、世界第2位の加里肥料メーカーである。その消息が発表されてから2日間で世界7大加里肥料メーカーの株価総額が200億ドル以上飛んでしまった。

Uralkali 社は脱退により、安値で販売ことができ、市場のシェアを拡大する目論んでいる。公開された業績等の情報から Uralkali 社の塩化加里生産コストは 171 ドル／トンと推定され、業界の平均生産コスト 240 ドル／トンよりはるかに安い。

Uralkali 社はロシア国内での販売価格が 200～220 ドル／トンであるのに、輸出価格はカルテルの関係で 370～450 ドル／トンに跳ね上がる。カルテルからの脱退により、これからの塩化加里価格が 25%下落するだろうと関係者が予測する。

Uralkali 社は脱退の前日、中国農業資材ホールディングスとの間に 7 月 29 日～12 月 31 日までの間に 50 万トン塩化加里を輸出する契約を締結した。但し価格は未定。